

北海道大学シラバス					
■ ■ 科目名					
母性看護学援助論II					
■ ■ 講義題目					
■ ■ 責任教員 (所属)					
中村 真弥 (大学院保健科学研究院)					
■ ■ 担当教員 (所属)					
中村 真弥 (大学院保健科学研究院) 吉田 倫子 (大学院保健科学研究院) 近藤 祥子 (大学院保健科学研究院)					
■ ■ 科目種別	保健学科			■ ■ 他学部履修等の可否	不可
■ ■ 開講年度	2022	■ ■ 期間	1 学期	■ ■ 時間割番号	022139
■ ■ 授業形態	演習	■ ■ 単位数	1	■ ■ 対象年次	3～3
■ ■ 対象学科・クラス	保健学科 [看護学専攻]			■ ■ 補足事項	H28～入学者用
■ ■ ナンパリングコード	HLT_N 3720				
■ ■ 大分類コード	■ ■ 大分類名称				
HLT_N	医学部保健学科 (看護学専攻)				
■ ■ レベルコード	■ ■ レベル				
3	学部専門科目 (発展的な内容の科目)、全学教育科目 (高年次対象科目)				
■ ■ 中分類コード	■ ■ 中分類名称				
7	専門分野II: 母性・小児看護学				
■ ■ 小分類コード	■ ■ 小分類名称				
2	演習				
■ ■ 言語					
日本語で行う授業					
■ ■ 実務経験のある教員等による授業科目					
該当する					

■ ■ キーワード

母性、父性、周産期、妊娠、分娩、産褥、新生児

■ ■ 授業の目標

この授業の目的は、周産期にある母子の生理的变化および心理社会的適応過程を理解することである。さらに、母子の適応過程を促すために必須となる看護技術の基本を理解することに重点を置いている。

■ ■ 到達目標

この授業の終了時には、学生は以下の能力を獲得していることを目標とする

1. 分娩期、産褥期の生理的变化および心理社会的適応過程を説明できる。
2. 新生児期の生理的变化を説明できる。
3. 母性看護に必要とされる基本的な看護技術の原理原則を説明できる。
4. 看護過程の原則をウェルネス看護の視点から事例に適応し、必要な看護を説明できる。

■ ■ 授業計画

- 1回目 コースオリエンテーション、分娩期の看護①
- 2回目 分娩期の看護②
- 3回目 帝王切開時の看護
- 4回目 新生児期の看護
- 5回目 産褥期の看護①
- 6回目 産褥期の看護②
- 7回目 産褥期の看護③
- 8回目 看護過程課題と技術演習の説明
- 9回目 技術演習（母性看護学に必要な看護技術）
- 10回目 技術演習（母性看護学に必要な看護技術）
- 11回目 看護過程
- 12回目 看護過程
- 13回目 看護過程
- 14回目 看護過程発表
- 15回目 看護過程発表

■ ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

予習として、講義・演習予定範囲に関する箇所に関して事前に教科書を熟読すること。復習として、当日提示される講義のねらいごとに、学習内容を振り返ること。

■ ■ 成績評価の基準と方法

2/3以上の出席をもって評価対象者とし、小テスト（40%）、講義での課題（20%）、看護過程課題（40%）により評価する。

■ ■ 有する実務経験と授業への活用

周産期医療施設で助産師として勤務経験を有する教員が、実務経験に基づき、母性看護学について講義を行う。

■ ■ 他学部履修の条件

■ ■ テキスト・教科書

[母性看護学II 周産期各論 第2版 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得 / 有森直子、他 : 医歯薬出版; 第2版, 2020, ISBN:9784263237373](#)

■ ■ 講義指定図書

[写真でわかる母性看護技術 ―褥婦・新生児の観察とケア、母乳育児を理解しよう!― \(写真でわかるシリーズ\) / 平澤美恵子 : インターメディアカ, 2008, ISBN:4-89996-187-1](#)

■ ■ 参照ホームページ

■ ■ 研究室のホームページ

■ ■ 備考

初回授業は対面授業です。講義資料はMoodleにアップします。講義では各自のノートパソコンで閲覧、もしくは印刷して活用してください。

■ ■ 更新日時

2022/03/25 14:39:55

■ ■